

平成24年度事務事業評価シート（23年度実施事業分）

事業番号	14 09 02	中期総合計画主要施策番号	4-01	担当課	部・課	教育委員会事務局スポーツ課
事業名	かがやけ信州っ子 体力アップ事業			内線	4471	
				E-mail	sports-ka@pref.nagano.lg.jp	
実施期間	H17 ~	根拠法令等				
実施方法	県が直接実施					国庫・県単 国庫補助事業・県単独事業

事業の概要等	目的(必要性)	長野県の児童生徒の体力は、昭和42年及び60年と比べて総じて低い傾向にあり、運動を行う児童と行わない児童の二極化が進んでいる。そこで、スポーツに親しむ機会を提供し、運動・スポーツの習慣化のきっかけを作ることにより、体力・運動能力の向上を図る。				
	対象	小・中学校児童、生徒 指導者(地域の指導者、教員) 保護者				
	目指すべき姿	長野県の全ての子どもたちが自ら体を動かす楽しさをみつけ、進んで運動・スポーツに取り組む習慣を身につけることで、子どもたちの体力を向上させ、生涯にわたって運動・スポーツを楽しむ環境を整備し、豊かなスポーツライフの実現を図る。 目標値: 体力合計点の平均を全国平均並みとする。				
	事業内容	・キッズ運動遊びどこでもゼミナール(以下「どこでもゼミナール」という。) 子どもの体力向上支援委員会で作成した小学校低学年を対象とした運動プログラム(できる喜びを体験させる運動遊び)を活用し、運動遊び教室を県下8会場において開催する。 ・ながのスポーツスタジアム(以下「スポーツスタジアム」という。) ホームページ上に所定の運動種目の記録をランキング形式で掲載し、小中学校単位・クラス単位で記録を競い合う。 ・元気な信州っ子復活支援事業 小学校中・高学年を対象とした長野県版の運動プログラムを開発し、そのDVDを県下全小学校へ提供する。				

事業コスト	区分	単位	22年度	23年度(当初)	24年度(当初)	23年度事業費の主な内訳
	最終予算額 (A)	千円	2,777	5,370	2,116	講習会等講師謝金 418千円
	決算額 (B)	千円	2,295	4,915		指導用冊子印刷代 298千円
	B(H24はA)のうち一般財源	千円	314	1,601	760	運動プログラムDVD作成委託料 982千円
	概算人件費	人	0.40	0.40	0.40	体力集計システム構築委託料1,421千円 他
	概算事業費 (B(H24はA) + C)	千円	5,622	8,673	5,419	

事業実績	成果指標・活動指標内容	単位	22年度	23年度	24年度(見込)	左記以外のH23年度実績
	どこでもゼミナールの参加者数(活)	人	604	682	700	・どこでもゼミナールは、小学校教員、保育士の参加が増加し、体力向上への問題意識と指導力向上に繋がった。
	スポーツスタジアムの参加者数(活)	人	24,889	59,920	60000	・参加した保護者からのアンケートでは「実際に動き体験することによって運動の必要性を実感できた」などの感想が多く寄せられるなど好評であった。
	全国調査の体力合計点の平均(成)	点	49.05		50	・子どもの体力向上支援事業で作成した小学校を対象にした全校運動に活用できる運動プログラムのDVD作成し県内の全小学校、特別支援学校に配布することで普及が図られた。
	<効率指標(単位当たりコスト等)> 一人あたりの体力向上費用	千円/人	30	47	-	(効率指標 算出式) 概算事業費 / 児童・生徒数

事業の成果	事業の目標(H23)	事業成果・評価				評価区分
	・どこでもゼミナールの参加者数を600名以上確保する。 ・スポーツスタジアムについては、参加延べ人数を昨年度並(26,000人)とする。 ・体力合計点の平均を、前年度以上(49.05)とする。	・どこでもゼミナールの参加者は682名となり、目標を上回った。(指導者の参加増) ・スポーツスタジアムの参加者数は昨年度を大幅に上回る59,920人であったが、1校1運動として全校で取り組む等、有効に活用され運動する習慣化に活用されている。 ・体力合計点は全国調査が実施されなかったため、評価できないが小・中学校の体力テスト実施率が向上し体力を客観的に評価することで授業や学校教育活動全般に生かそうとする意識が高まっている。				b 期待どおり

事業の課題	区分	判定・説明				
	事業ニーズの変化	増加	横ばい	減少	判定の説明	・長野県の児童・生徒の体力は、依然として低い傾向にあり、体力向上に向けた全体的な取り組みが喫緊の課題となっている。 ・子どもの運動をする子としない子の二極化が進んでいる。学校における運動量の確保、保護者をはじめ地域へ啓発が必要である。 ・どこでもゼミナール及びスポーツスタジアム共に、体力向上への有効性を周知し、参加者を増やす取り組みを続けたい。
	県の関与を見直す余地	余地なし	当面余地なし	余地あり		
	事業改善(有効性・効率性)の余地	余地なし	当面余地なし	余地あり		

総合分析等	総合分析(今後の課題、取組方針等)	・どこでもゼミナールに参加した児童、保護者、指導者には運動プログラムのよさや効果を実感してもらえた。小学校教員、保育士等の参加が増加し体力向上に係る意識が以前より高まりつつある。一層の運動プログラムの普及・啓発を図る。 ・「かがやけ信州っ子体力アップ事業」1校1運動や学校の体力向上プランを推進することで県の事業を利用する機会が増加している。 ・今後は指導者向け講習会を幼稚園、保育園まで範囲を拡大する。スポーツスタジアムの種目の精選等、来年度も指導者のニーズに立った具体的な事業を展開する。				
	特記事項					